

請 願 文 書 表

(交通局)

受 理 番 号	3 5 1	受 理 年 月 日	令 和 6 年 9 月 17 日
件 名	調整区間における市バス運賃値上げの撤回		
要 旨	<p>今年6月1日から、西京区のほぼ全域と南区・伏見区の一部のバス運賃が値上げされた。</p> <p>2月の市長選挙でも、市長就任直後の3月市会でも市長は、市民生活への負担を避けるため、徹底した経営改善を推し進め、国との連携で財源を確保し、市バスの運賃改定回避に向けて全力で取り組むと発言した。これは市民との公約である。3月末の値上げ発表に、西京区の住民や西京区等への通勤・通学等でバスを利用している方々は寝耳に水であった。突然のバス運賃値上げや洛西地域での路線の改変・減便等について、繰り返し交通局や市に市民への説明会を求めてきたが、何ら説明もなく、行政としての説明責任を果たしていない。西京区の地域住民や市民から、バス運賃の値上げを中止するよう求める署名が短期間に3,100人を超えて集まり、市長に提出をしたが、バス運賃値上げは強行された。</p> <p>市長は、値上げを回避できるのは均一運賃区間だけと発言したが、諸物価の高騰が続いて暮らしの厳しさが増しているのは、均一運賃区間外に暮らす私たちも同様である。とりわけ、均一運賃よりも高い運賃（阪急桂駅から洛西バスターミナル、阪急桂駅から京都駅は240円、桂坂から京都駅は300円など）が大きな負担となっている地域で、今回、20円、30円と運賃が上がり、他の地域との運賃格差は更に広がった。</p> <p>敬老乗車証の高い負担金を払えず、敬老バス回数券を申請した方は、回数券に20円、30円の小銭を添えてバスに乗ることになり、更に高齢者の外出抑制に拍車がかかる状況になっている。</p> <p>京都市は、昨年夏頃には京阪京都交通の運賃値上げを知っており、市民生活への負担を避ける考えると考えるならば、運賃値上げを回避するためにできることを検討し、対策する時間は十分あったはずである。</p> <p>今年度、京都市として市バスと民間バスの赤字路線を維持するための予算2億9,500万円を計上した。6月からの運賃値上げによる利用者の負担増分は約1億円であり、市バスの乗客増で増収、市の2023年度決算は88億円黒字という報道もされており、市バス・民間バス事業者への支援予算を増やすことで、値上げした運賃を元に戻すことも可能である。</p> <p>何より、市民の公共の福祉の増進が、京都市、京都市交通局の目的である。</p> <p>については、物価高騰下の市民生活を考え、市民が公共交通を利用しやすくするために、6月から値上げされた運賃を元に戻すことを願う。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	山田こうじ、北山ただお、河合ようこ		
付 託 委 員 会	産業交通水道委員会		